



電子制御工学科5年 山崎 翔太

中学3年の頃、父親が工業高校出身ということもあり、私はどうしても工業系のことを学びたいと思っていました。そこで奈良高専と工業高校の2択となったのですが、家の方針で私学受験はなく、また、奈良高専の過去問(いわゆる赤本)の、まるで別世界のような問題を目の当たりにし、「自分には無理だなあ。」と達観してしまいました。そんな中の3者面談で担任が、奈良高専への編入について話してくれたときに始めて編入ができることを知りました。最終的に私は確実性の高い工業高校へ進学しましたが、そこで学びつつも、どうしても奈良高専に編入したいと考えるようになっていました。

その後、高校3年6月の編入試験に何とか合格し、奈良高専への4年次編入を決めることができました。合格当初はただ「うれしい」の一言だったのですが、いざ編入してみると、初日からのTOEIC、さらにその翌日から通常授業で8時限までという流れは、工業高校出身の私から見れば異様に詰まったスケジュールでした。また、その授業内容も予想以上に進んだものであったため、1年生から在籍していた他学生に比べ私は学力が明らかに劣っているとその時ようやく認識しました。

あれから2年が経過し、思い返してみれば、勉強や自分との格闘の日々だったと思います。あまりのレベルの違いに絶望することや、途中で投げ出しそうになったことも多くありましたが、それらを乗り越えてこの卒業の日を迎えることができ、とてもうれしく思います。クラスメイトの皆はそれぞれ進路は違うけれども、各分野各方面で更に成長していくのだろうと思います。そんな中で自分も負けないう、これからも踏ん張り、がんばっていきたいと思います。



学級担任 島岡 三義

卒業生、専攻科修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。21世紀は産業革命以降20世紀末までの負の遺産を整理する時代といわれたものですが、昨年の東日本大震災、原子力発電所の事故、さらには円高ドル安・ユーロ安での製造業の大幅減益、生産拠点の更なる空洞化の加速等で、我が国は未曾有の危機に直面しています。皆さんも、奈良高専に入学した頃と世の中の状況や人々の価値観が大きく変わっていることにお気づきかと思います。問題山積ですが、皆さんの若いエネルギーによって日本の復興、復活を遂げてほしいと切望するものです。科学の知識では解決が困難な事象をも解決していくのが工学者の使命ですので、奈良高専で学んだことを発展させ、皆さんの底力を見せていってほしいと思います。

卒業を迎えた今は多くの知人との別れになるのかも知れませんが、4月には新しい出会いが待っています。これから長くつきあえる友人を持って持つほど、自分の人生を豊にしていけると思いますので、人との出会いも大切にしてください。皆さんの更なる発展とご活躍を祈念して、お祝いの言葉とします。

情報工学科5年 小河 亮

期待、不安、希望、様々な思いを胸に零戦が見える校門をくぐってから、もう5年の月日が流れました。月日が立つのは早いもので、もう奈良高専の本科生としての時間を終えようとしています。この5年間、奈良高専で得たものはなんだろう。そう考えた時に私がまさきに思いついたのは友達です。5年間、テストや卒研などの辛いことも、スポーツ大会や工場見学や修学旅行などの楽しいことも共に分かち合った友達とは強い絆で結ばれました。5年生の時のスポーツ大会に自分たちが作ったクラスTシャツを着て戦ったときに、みんなも自分たちの中に強く結ばれている絆を再確認したのではないのでしょうか。4月以降、みんなそれぞれの道へ歩んで行くけれど、この絆は一生消えない、私はそう確信できました。この奈良高専で得た友達は私の一生の宝です。充実した5年間を過ごすことができたのはみ

んなのおかげです。本当にありがとうございます!!

奈良高専を卒業するにあたって、本当にたくさんの人にありがとうと言いたいです。学校の先生方、事務の方々、生協の方々、図書館の方々、私が充実した奈良高専生活を送ることができたのはあなた方の支えがあってこそでした、本当にありがとうございました。他に、絶対に忘れてはいけないのはお父さん、お母さんです。たくさん迷惑を掛けました。心配もさせました。それでも、暖かく見守り続けてくれて本当にありがとう。少しは立派になれたでしょうか?きっとこれからも迷惑をかけてしまうでしょう、心配もさせてしまうでしょう。それでもどうか暖かく見守っててください。

最後になりましたが、改めてもう一度、お世話になった方々全員に対してお礼を。本当にありがとうございました。

学級担任 山口 賢一

卒業おめでとうございます。私が奈良高専を卒業してから、15年の歳月が流れ、いま担任として皆さんの門出に立ち会えることにとても感激しています。「ついこの間、自分が卒業したのに…」というのが実感です。高専の学生時代のように、ゆっくり物事に取り組める時間はどんどん少なくなっています。これからの人生を充実したものにするためにも、うまく時間を使って、いろんな経験を積極的にして立派な社会人になってもらえるとうれしいです。

